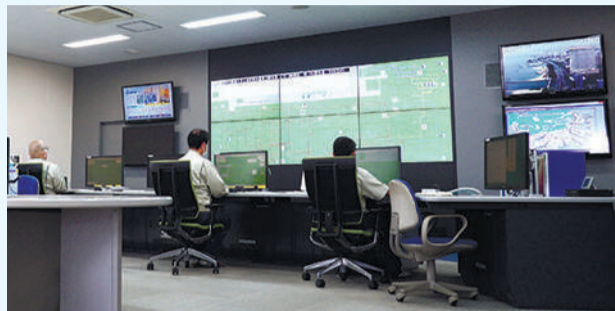


# 節水都市ふくおかの「ヒミツ」にせまる！

福岡市は2度の大渇水を教訓に、水源地域・流域からいただいた貴重な水資源を有効かつ合理的に使用する「節水型都市づくり」に取り組んできました。そして、市民の皆さんの「水をたいせつに使う」節水への意識も浸透しています。

世界トップの低い漏水率 **2.0%** [R3年度]

福岡市はさまざまな技術で漏水率を減少させてきました。現在の福岡市の漏水率は、世界トップの水準であり、限りある水を有効に使用しています。



水管理センターの「配水調整システム」

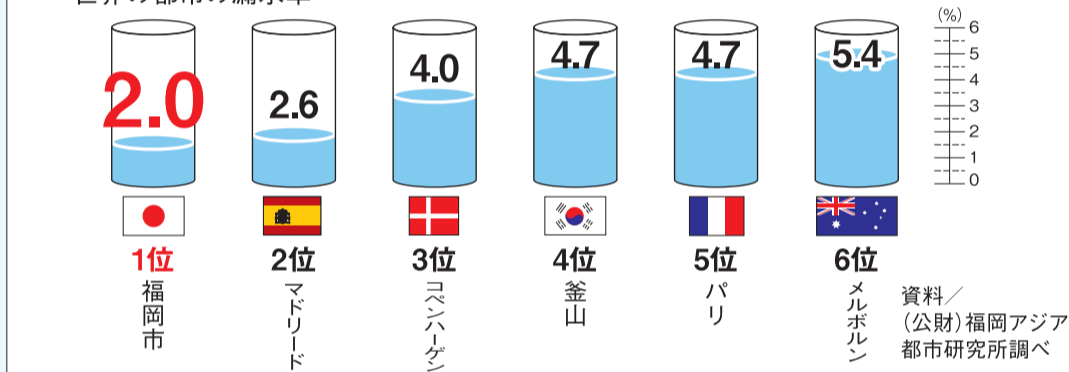
## 低い漏水率を維持するための取組み

- 計画的な漏水調査
- 配水調整システムによる集中コントロール
- 配水管の計画的な更新

を実施することで、漏水率の低さを維持しています。



世界の都市の漏水率



たいせつな水を無駄にすることなく、皆さんへお届けします！

□水管理課 水管理センター 平田  
職種:土木



### ◆仕事の内容・・・

浄水場でつくられた水道水を、市内各所に安定的にお届けする仕事をしています。市内全域に張り巡らされた配水管は、水圧が高くなりすぎると漏水につながる恐れがあるため、配水調整システムで、配水管の水圧を、使用量に応じて適切な状態に維持し漏水を抑制しています。

### ◆仕事のやりがい・・・

突発的な事故や災害などに素早く対応するため、使用量の少ない深夜でも配水管の状況を注視しながら、配水調整システムを操作しています。生活に欠かせない水を無駄なくお届けし、世界トップの漏水率の低さを維持することに貢献できていることは、やりがいを感じますし、誇りでもあります。

### ◆「節水の日」を迎えるにあたり一言・・・

これからも、職員一丸となって、水を無駄なく確実にお届けします！安心して水道水をご使用ください。そして、当たり前の「今」を守るために、市民の皆さんと一緒に水をたいせつに使うことを心がけていきたいと思っています。



他にも節水型都市づくりを担う魅力的な仕事がたくさんあります！

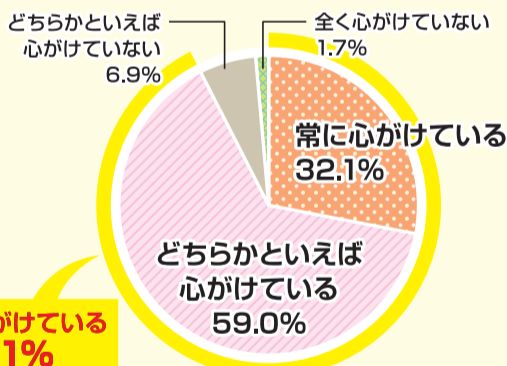
## 貴重な水源 「市民ダム」

### 高い節水意識

令和4年度の市政アンケート調査では、節水に心がけている人の割合は91.1%でした。多くの市民に「水をたいせつに使う」意識が定着しています。また、1人1日あたりの平均使用水量は、約200Lと大都市\*の中でも最も少ない水準となっています。

一人ひとりの高い節水意識は、「市民ダム」とよばれています。

\*大都市の平均使用水量は約240L

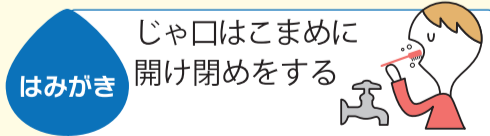
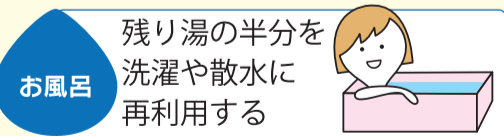


節水に心がけている **91.1%**

令和4年度 市政アンケート調査  
※小数点第2位を四捨五入しているため、回答率の合計が100%にならない場合があります。

### 家庭でできる節水活動！

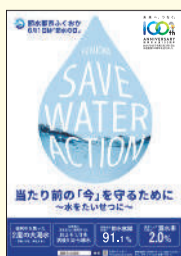
市民の皆さんが、1人1日バケツ1杯(10L入り)の節水をすると、1年間で約580万m<sup>3</sup>の水が節約されます。これは、**まがりふち** 曲淵ダムがためることのできる水の量(約260万m<sup>3</sup>)の2杯分にもなります。



### 水道局による節水広報活動！

6月1日の「節水の日」に、街頭や、ポスター、ホームページ・Twitterなどで、「水のたいせつさ」をよびかけるほか、“限りある水をたいせつに使う”節水型都市づくりのPRにも積極的に取り組んでいます。

6月1日「節水の日」ポスター



いろいろなイベント活動を通して水のたいせつさを伝えたい！

□総務課 広報戦略企画担当 立花  
職種:行政事務(行政)



### ◆仕事の内容・・・

今年3月1日に水道事業が100周年を迎えたことを機に、水道局の取組みを多くの市民の方に知ってもらうための広報活動について、企画や実施をしています。また、アンケートを通して、市民の皆さんのニーズを的確に把握することも大事な仕事です。

### ◆仕事のやりがい・・・

いつも市民の皆さんに使っていただいている水道水ですが、「じゃ口の向こう側」について、考える機会は少ないと思います。どうやって水道水が皆さんの元に届くのか、その過程を知っていただくことはとても大事だと、この仕事をしていて強く感じますし、イベントで参加者の方から「初めて知った！」などの反応をいただくと、とてもうれしく感じますね。

### ◆「節水の日」を迎えるにあたり一言・・・

私も含め、2度の大渇水を経験していない世代が増えてきています。今後、大渇水を経験しない方がいいのは間違いありませんが、同時に、記憶を継承していくことも大事だと感じています。今後も伝え方を工夫して、皆さんに「水のたいせつさ」について、考えてもらう機会を作っていきます。

